

## ソウル・原州に、「ハンサルリム」を訪ねる旅

(『むくげ通信』296号(2019.9.29)より)

飛田雄一

8月21～23日、韓国を訪問した。学生センターの前理事長・保田茂先生とふたりだ。(最近私は館長を辞し保田先生のあとを継いで理事長に就任したばかりです。)

韓国の「ハンサルリム」(ひとつのいのち、生き方)グループがどうしても保田先生と私に来てほしいという。8月13～20日、神戸・南京をむすぶ会で南京桂林上海フィールドワークを終えて直ぐだったので、少々不安だったが行くことにした。金浦空港には、曹喜夫さんと神戸大学に留学し保田先生の下で博士号を取得した金起燮さんが迎えに来てくれた。曹さんは、カトリック農民会の方でセンターを何回も訪問されている旧知の仲だ。

まずは、金浦空港近くのウナギの有名店。おいしかった。高陽幸州山城の近くだった。



美味しいウナギとハンサルリム懇親会

そしてハンサルリム本部近くの江南のすてきなホテルにチェックイン。招待されている方としては恐縮だ。その日の夕方、ハンサルリムの事務所で歓迎会があるという。当初、講演会という話もあった。演題は「日本の有機農業運動の展望」(保田)、「最近の日韓情勢」(飛田)。保田先生はともかく私は勘弁してほしいと言って、懇親会だけになった。これが今回訪問の唯一の公式行事だ。

そこで、いろいろお話ししたのち、それぞれに「感謝碑」をいただいた。今回訪問の目的がここにあったようだ。立派なもので大恐縮した。私のものは以下のとおり。

「感謝牌 飛田雄一先生

貴方は長年にわたり神戸学生青年センターを通して韓日民間交流活動に多くの助力をされ、韓国民主主義と人権の価値を高めるのに大きな役割を果たされました。

ハンサルリムは生命と平和を愛する貴方の努力に尊敬と

感謝の言葉をささげ感謝牌を贈ります。

2019年8月21日 ハンサルリム家族一同



張弔淳先生の墓地と学生センター冊子



翌22日、原州に向かった。原州は韓国民主化運動のメッカともいわれるが、カトリックの池学淳神父の活動の拠点、そして張弔淳先生がおられた。

張先生は、「生命思想」を唱えた「在野の元老」だ。1928年原州で生まれ、ソウル大の美学科に通っていたが朝鮮戦争で中断。1961年の5.16クーデターの直後には平和統一論を唱えたと3年間投獄された。1973年の民生学連事件で多数の学生が逮捕されたとき、当時ローマから日本経由で帰国しようとしていた池学淳神父に働きかけた。そして東京で記者会見をした池神父が共産主義のレッテルを貼ろうとしたことに対して「自分が学生たちに活動資金を与えた」発言して韓国政府と対決した。

先生は1994年5月に66歳で亡くなられた。私は通信206号(2004.7)に「訪問記・張弔淳先生の10周年忌の集いに原州を訪問して」を書いている。147号(1994.11)にも原州を訪問した記事を、李泳禧先生がハンギョレ新聞1994.5.24に書かれた張先

生の追悼文とともに掲載している。追悼文には「一つの時代を変革なさったその大きな業績にも関わらず一生を“一粒の小さな粟（一栗子）”を自認しながら生きてこられました」とある。

『殺生と文明からサリムの文明へーハンサルリム宣言／再読一』は学生センター出版部が2014年7月に発行したもの。モシムとサリム研究所（理事長朴孟洙）著、大西秀尚訳だ。実は「ハンサルリム宣言」そのものは、哲学的で難解な文をだが、当時信長正義さんが翻訳し冊子として発行している。

「宣言」は「ハンサルリム運動の理念と実践方向を確立するために持った学習会と討論会で合意した内容を、張堯淳先生、朴在一、崔惠成、金芝河が整理し、崔惠成が代表執筆して1989年10月29日ハンサルリムの集いの創立総会で採択したもの」（『殺生と・・・』より）。当時本格的な出版を考えたが、東京の某出版社と著作権契約がされているとのことで断念した経緯がある。



張先生の『書画資料集Ⅵ』2016.12所収。鹿嶋節子さん張先生の絵。「張先生が、がん闘病中に私を忘れずに送ってくださいました」とある。

原州では張先生のお墓、記念館を訪ねた。書画が多く展示されている。先生の「한살림（ハンサルリム）」は、先生のハングルのはのびのびしていて気持ちがいい。張堯淳書体となっているとのことだ。

先生の絵が、学生センターにある。「富国都城之榮華不如野花之樂」、蘭の絵がいい。先生の書画はすべて送る相手に文も選んで書き、同じものがないという。



張先生の書と原州・雉岳山龜龍寺の仁王さん

時間ができたので雉岳山龜龍寺を訪ねた。韓国のお寺はいずれも山あいにあつてすてきだが、ここもとてもいい雰囲気だった。ハイキングコースがいくつもあり次回は登ってみたい。



保田茂先生と元留学生たち、私も保田門下生です

原州—ソウルは以前に比べたら便利になっている。帰路に交通停滞があったが、無事ソウル到着。そして神戸大学保田先生のところに留学した韓国人留学生と懇親会となった。むくげの会が2018年4月の洪城合宿でお世話になった鄭萬哲さんもいる。こんどのむくげ合宿は光州の安炳烈さんのところにしようか？ 夫婦で来ていた安さんは、阪神淡路大震災のときに留学中で、地震の翌日に避難先の神戸市北区で子どもが生まれて話題になった。

3日目、帰国の日だがもう1か所、水原を訪ねた。カトリック農民会の初代会長の李健雨さんのお墓まいりだ（写真右、保田先生）。学生センターとカトリック農民会が1980年代初めに出会っているが、そのきっかけをつくってくれたのが李健雨さんだ。あつと言う間の3日間。充実、感謝の3日間だった。

